

平成 23 年度 府立西淀川高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校

- 1 わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」（「知」）を定着させ進路実現を図る。
- 2 やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めると共に基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性（「徳」）を醸成する。
- 3 健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身（「体」）を育む。
- 4 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化（「絆」）する。

2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 1 月実施]	学校協議会における提言内容
設問を調整し生徒・保護者・教員の回答を比較するとともに前回（平成 20 年度実施）との比較の基づき、学校協議会での意見と提言をもとに次のようにまとめた。 ①授業の分かりやすさ 教員はわかる授業を工夫している（83%）と回答しているが、生徒は分かりやすいが 65%と回答にはやや開きがある。来年度に向けて、更なる授業改善の工夫が必要。 ②生徒指導 「生徒指導は厳しい」という評価が増加。生徒 55%⇒75%、保護者 33%⇒43%、教員 45%⇒74%。生徒の実態と生徒・保護者のニーズをもとに生徒指導体制の再構築が必要。 ③いじめや悩みごとの相談 教員は相談に乗っているが 100%であるが、生徒は相談に乗ってもらっているという回答は 58%とかなり意識の違いがみられる。進路や学習については教員に相談するが、いじめや悩みはまず友達に相談。設問を変えるべきとの指摘があった。 ④キャリア教育の機会 「機会が増えた」という回答が生徒 77%、教員 86%と増加。適切に評価されている。 ⑤施設設備の充実や校内美化への取組 プラス回答が大幅に増加。生徒 39%⇒56%、保護者 48%⇒67%、教員 46%⇒94% 協議会委員からも右記のとおり高い評価を得た。 ⑥将来の進路に必要な教科・科目 「必要な教科・科目がある」と答えた回答数は教員 77%保護者 75%に対し生徒は 46%とやや認識に開きがある。基礎学力の充実が大きな課題であるので、具体的な対策と実践が必要である。	第 1 回（6/24） ○生徒の学校定着を図るため、授業内容や行事等の取組を工夫する。 ○健康診断の結果と生活状況とに関係性が見られる。改善のための取組と保護者への働きかけが必要である。 ○『環境』の取組が定着している。地域だけでなく、就職支援の意味でも企業にアピールすべきである。 ○学校設備改善についての意見 第 2 回（10/24） ○就職内定率の向上のために取組が必要。分析と対策を至急に行う。 ○今日の授業視察により、授業等での手厚い取組を感じた。今後は生徒に将来の希望を早く持たせる取組を行う。 ○言葉遣いが気になる。コミュニケーション力向上と敬語を教える取組を計画的に行う。 ○体験的な取組を更に進める。 第 3 回（3/2） 学校教育自己診断の結果から ○基礎学力の充実が進路保障のカギとなる。そのために次の取組を検討し実践する必要がある。 ○生徒の気持ちを学校につなぐためには、よいメンターが必要。その点を探ることのできるアンケート項目を加えるとよい。 ○施設整備、校内美化の評価が全ての対象で高くなっている。環境整備が行われていると生徒の心が荒れないので大切なこと。継続を望む。 ○家庭で行うべき基本的な躾の部分から社会へ出て生きていくために必要な「学び」まで、学校としてよく取組んでいる。

3 本年度の取組み内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	「豊かな学び」の定着	○「わかる授業」の展開 ・教科会議は、毎週、時間割に組み込むことができた。実技教科（体育、美術）ではT Tによる授業が行えた。生徒による「授業評価アンケート」では「分かりやすい」が80%となり、昨年度より10Po上昇した。 ・大学教授や専門家による授業を積極的に導入した。 ・生徒の学びの姿勢と授業の改善を図るため「授業評価アンケート」を実施した。教科担当が分析、各教科会で課題について議論した。 ・初任者や教職経験の少ない教職員中心に学校外の教育関係者を招聘して研究授業や授業公開を実施し、指導法の改善に努めた。外部からの評価により、授業分析や課題の発見ができた。 ○「学び直し」の推進 ・T Tや少人数展開による習熟度別授業を実施した。	・生徒評価では、「授業が分かりやすい」という評価が高かったが、学校教育自己診断の結果とはややズレがあり、今後も学習指導の工夫を継続する必要がある。 ・大学教授や専門家を定期的に本校へ招いての授業の取組が定着した。来年度も継続して実施する。 ・教科担当の分析、各教科会での議論は、来年度以降も継続して行い、「豊かな学び」にむけた授業改善に資する。 ・外部評価を得ることにより、新たな視点での授業分析、課題の掘り出しができ、大きな成果があったので、来年度も継続する。 ・T Tや習熟度別学習は定着した。個別指導の必要な情報や体育でのT T、英語や数学での習熟度別の少人数学習とも有効であった。さらに効果をあげるために授業改善に取組む。
取組み②	基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成	○規範意識の醸成 ・「挨拶をする」「時間を守る」「人の話を聞く」「物を大切にする」など徹底した指導を行った。 ・あらゆる教育活動において、校内巡回や立ち番を行い、日常の生活規律と規範意識醸成の取組を推進した。 ○キャリア教育や志学の展開 ・府実践的キャリア教育支援事業によるスクールソーシャルワーカー（SSW）や就職支援コーディネーター（就職 Co）を活用した取組や、「志学」を推進し、人間関係形成力やコミュニケーション力の充実を図った。 ・インターンシップや職場見学の職業体験学習等の充実を図った。インターンシップの参加者は16名。（昨年並み）職場見学参加者は121名であった。	・声を出して挨拶できる生徒が増えた。人間関係構築の第一歩となった。引き続き取組みを継続する。 ・遅刻率（遅刻数・生徒数）は1.0Po減少した。欠席率（遅刻数・生徒数）も2.2Po減少したが、生活規律の改善のため、指導方法について新たな工夫をする。 ・SSWや就職支援 Coによる生活指導・進路指導改善の取組により、就業意識が向上し、就職内定率が昨年度より大幅に向上した。（63.5%⇒82.7%）就職活動へのモチベーション維持には精神面のフォローが不可欠であり、今後も継続して取組を進める。 ・就労意識の希薄な生徒たちに困難はあるがインターンシップや職場見学の意義を理解させ、さらに参加者を増やせるよう次年度も継続して取組む。
取組み③	人間関係力の育成・「絆」の強化	○人間関係づくりのために ・「挨拶をする」「時間を守る」「人の話を聞く」の3点をポイントに、日常的に指導した。 ○地域、中学校、保護者との連携した教育活動 ・これまでの3、10月の中学訪問に加え、8、9月に中学訪問を実施した。 ・「環境フェスタ」や防災をテーマとした「中高生交流プロジェクト」を実施した。『環境』の取組では来校者は延べ200名を越え、生徒のボランティアも年間約100名が参加し、有意義な取組ができた。 ・HPと学校案内パンフレットを刷新。教育活動が分かりやすく伝わるよう工夫し、情報発信力を強化した。	・学校教育自己診断での「挨拶しているか」等の項目の自己評価は80%がプラス評価であった。指導の継続が習慣化につながるので、来年度も継続して指導する。 ・家庭訪問を回数も昨年比約2倍となるなど、家庭との連携の取組が定着した。中学校・家庭との連携を重視し、来年度も生徒の指導を行う。 ・『環境』の取組は地域にも定着し、好意的に受け止められている。生徒のボランティアも徐々に定着しているので、今後も継続し活動を推進する。 ・HPの更新回数も増え、情報発信は大幅に増加した。来年度は広報の方法や学校見学会の内容を検討し、更に地域や中学校等から本校教育活動についての理解を得るよう努める。